

放流効果調査事業（マコガレイ）

村松里美・鈴木亮・吉田雅範

目 的

第7次栽培漁業基本計画の技術開発対象種となっているマコガレイについて、放流技術の開発に取り組む。

材料と方法

陸奥湾系群の放流効果を調べるため、野辺地漁港に人工採苗した種苗を放流し、野辺地町漁協に水揚げされたマコガレイについて、体色異常や外部標識等の有無を確認した。

結果と考察

2019年12月9日から12月11日までの間に野辺地町漁協に水揚げされたマコガレイ計3,529尾について標識（腹鰭抜去）の有無を確認したところ、12月9日に4尾（全長30.4～31.7cm）、12月10日に4尾（全長27.6～31.5cm）、12月11日に3尾（全長30.2～34.9cm）が標識魚であった。標識魚の混入率は0.3%であった（表1）。再捕されたマコガレイは11尾で、生産年ごとの回収率は約0.2%であった（表2）。2012年から2014年にアンカータグ、ダーツタグを装着して放流した個体の再捕は確認されなかった。採卵した年を生産年とすると2015年産から腹鰭抜去魚を放流しており（表3）、これから再捕魚が増えてくると考えられる。鰭抜去をした標識魚の種苗放流は、放流効果を把握するうえで有効な方法の一つであると考えられるため、引き続き市場調査を行う。

表1 マコガレイの放流効果調査結果

調査月日	測定尾数 (尾)	腹鰭抜去 (尾)	混入率 (%)
2019/12/9	1,192	4	0.3
2019/12/10	1,280	4	0.3
2019/12/11	1,057	3	0.3
計	3,529	11	0.3

表2 生産年ごとの回収率

再捕年	生産年度	2015	2016
	放流尾数 (鰭抜去)	850	3,673
2019		2	9
合計		2	9
回収率(%)		0.24	0.25

表3 これまでのマコガレイ標識放流結果

生産年	放流年月日	日齢 (日)	平均全長 (mm)	放流尾数 (尾)	標識尾数 (尾)	放流場所	標識種類
2015	2017/3/30	79	-	850	850	野辺地川河口干潟域	有眼側腹鰭抜去
2016	2017/3/30	100	20.7-21.5	58,500	0	野辺地川河口干潟域	なし
2016	2017/4/27	128	-	22,000	0	野辺地川河口干潟域	なし
2016	2017/6/6	168	35.9	20,000	0	野辺地川河口干潟域	なし
2016	2017/6/6	168	45.2	3,673	3,673	野辺地川河口干潟域	無眼側腹鰭抜去
2017	2018/5/14	150	20.1-28.3	8,300	0	野辺地川河口干潟域	なし
2017	2018/7/10	207	48.5	3,000	0	野辺地川河口干潟域	なし
2017	2018/8/2	230	53.4	1,500	0	堤川河口	なし
2017	2018/10/21	310	63.7	500	500	堤川河口	有眼側腹鰭抜去
2017	2019/4/19		164	337	337	野辺地川河口干潟域	無眼側腹鰭抜去
2017	2018/3/15	81	18	17,300	0	野辺地川河口干潟域	なし
2018	2019/3/11	79	14.8	7,000	0	野辺地漁港	なし
2018	2020/2/10	787	110.5	1,200	250	野辺地川河口干潟域	有眼側腹鰭抜去

*調整放流を除く